

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400054		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホームベにばら妹背牛		
所在地	雨竜郡妹背牛町字妹背牛406番地7		
自己評価作成日	平成26年2月15日	評価結果市町村受理日	平成26年5月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0197400054-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成26年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のケアや、業務に関して、随時スタッフ同士話し合いより良い環境作りに取り組んでいる。また、穏やかな雰囲気の中、皆様笑顔で暮らしています。少しでも地域に貢献できるように、地域の皆様との関わりも大切に考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造平屋建ての当事業所は、閑静な住宅地にあつて、妹背牛駅から徒歩5分、近くには交番、商店、保育園があり住環境や交通の便に恵まれている。居間には天窓があり陽が入り明るく、居間兼食堂は広くゆったりとして大型テレビが設置され、貼り絵、折り鶴、お雛様、リースなど季節の飾り物で家庭的な雰囲気を作っている。利用者の平均年齢は86歳を超えたが、職員は利用者個々の健康状態を把握して、テレビ体操や歌を歌うなど、無理強いしないようにして、機能訓練や「自覚性」を引き出すケアに努めている。利用者は、編物をしたり、お茶や会話を楽しみ、それぞれの居場所で、思い思いのことをしてゆったりと過ごしている。町内会に加入して地域の祭りなどに参加し、流しラーメンなどの事業所行事に地域住民が参加して交流している。ボランティアによる琴の生演奏や踊りなどの交流も行われている。毎月「グループホームだより」で利用者の医療面、生活面について、近況の写真付きで家族に知らせて意見、要望を聞いている。事業所前庭に、融雪溝が設置され、排雪による広い駐車場と非常時屋外一次避難場所が確保されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフが意見を出し合い理念を作った。ホーム内に掲示し、ネームの後ろにも記入することで把握し、実践に努めている。	職員全員で考え作りあげた理念(ケア理念)を、法人理念と併せてホーム内に掲示し、ネームプレートの裏面にも記入して共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入らせていただき、町内の行事や町の催しに積極的に参加している。ボランティアの方にも来ていただいている。	町内会に加入し、町内会行事(祭り、焼き肉パーティー等)に参加、流しラーメン等の事業所行事に地域住民が参加して交流している。踊りや琴の演奏でボランティアが来訪して交流している。	事業所行事への参加を地域住民に促すため、より積極的に町内会の行事に参加するとともに、広報や運営推進会議などを通じて呼びかけるなど、地域との交流が一層深まるような取り組みを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症について話をさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状や取り組みを報告し意見をいただき、サービス向上に努めている。	年6回開催し、行政、利用者、家族、町内会役員などが参加し、運営状況、行事などについて説明し、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。「認知症高齢者の心理」についての話をして認知症の理解を深める取組を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回の地域ケア会議に参加し、情報交換を行ったり、必要時連絡を取り合い協力関係を築いている。	役場福祉課には現況などを報告し、意見交換、情報を得て協力関係を築いている。また、地域ケア会議で意見交換、情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇委員会を設立し勉強会などで身体拘束について説明をしている。	接遇向上委員会を立ち上げ、資料に基づき研修し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関にセンサーを設置し、防犯のため夜間は施錠している。徘徊の状態になった場合の地域(警察、消防、タクシー、バス会社、郵便局等)との協力関係(SOSネットワーク)を構築している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇委員会を設立し勉強会などで虐待防止について説明をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会の題材としてあげ、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては入居の際に十分に話し合い理解と納得に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時などに随時意見や要望を聞き反映に努め、第三者苦情受付窓口を設置したり、アンケートを年に1度施行している。	日常の会話などから、個々人の要望、意見について把握し、家族とは来訪時、会話の時間を作り、意見、要望を聞いて運営に反映させている。また、利用者の医療面、生活面などの近況を「グループホームだより」で家族に知らせ、家族の意見、要望を聞いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の会議などで意見や要望を取り入れている。	ケア会議、運営者との面談で意見、要望を話し合い検討して運営に反映させている。日常的問題は、臨機応変に、解決出来る態勢も出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談を行うなどして把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ケアを振り返る機会を作ったり、ホーム内外の研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	月1回の地域ケア会議や外部研修などで交流する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談し話を聞き、思いを汲み取って関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を行い思いや要望を聞き信頼できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞き、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いなどをお願いし、協力しながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のより良いケアの為に話し合い協力しながら関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの来訪時にはゆっくり過ごして頂けるよう関わっている。	近隣からの利用者が多いこともあり、なじみの理容、美容院、買物、喫茶店など馴染みの関係が途切れないよう支援している。友人知人の訪問時は、お茶を出すなどゆっくり懇談できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないように配慮しながら利用者同士が関わりあえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	たまにお話しさせていただくことはあるが、必要に応じ支援していきたい。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話を聞き、希望に添えるよう努めている。困難な場合は言葉や表情などから本人本位に検討を行っている。	日常の関わりの時間を大切にして、思いや意向の把握に努め、把握した希望、意向を日誌に書いて共有し、希望や意向に添うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から聞き取りを行い、記録などから情報を共有しながら把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎや記録、スタッフ同士で情報共有しながら把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、スタッフ同士で話し合い作成している。	利用者、家族の意向を反映させ、3ヶ月毎に見直しをしている。計画は、ケアマネが作成し、全員でケア会議を行い、現状に即した介護計画を作成して家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録やカンファレンスで情報共有し実践に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に合わせてご家族や関係者と協力し合い支援に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は十分ではないが、ご本人が地域での暮らしを楽しめるよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を取り入れながら適切な医療が受けられるよう支援している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。職員が同行し、結果をアセスメントシートに記入して、状況に変化があれば家族に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には些細なことでも相談し助言をもらっている。診療所にも定期的に情報共有し相談し、適切な受診、訪問診療を受けられるよう支援している。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者と連絡を取り合い適切な治療が受けられるよう、また、早期退院できるよう努めている。					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、ご家族と書面を使いお話しさせていただいている。	契約時に、指針に基づき家族、利用者説明し同意を得ている。重度化が認められた段階で利用者、家族の意向を聞いて医師と連携し緊急入院することとしている。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を行っている。また、個人で救命講習を受講している。					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては昼夜とも想定し定期的な訓練を地域の協力を得ながら行っているが、その他の災害に関しては不十分。	火災に対する避難訓練は、昼夜をそれぞれ想定して、年2回消防署の指導を受け、町内会等の協力で実施しているが、自然災害(地震、水害)については、実施していない。		「地震、水害等の自然災害」についても、町の防災マップを参考にマニュアルを作成して、職員間で共有し、実践につなげる体制を構築することを期待する。また、町内会との関係を深めて災害の際に地域住民の協力が得られるよう働きかけを期待する。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しプライバシーを損ねない対応に努めている。	利用者一人ひとりの人格を大切にして、言葉がけに気をつけ、プライドや尊厳を損ねないケアに努めている。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中から思いや希望を聞き出し自己決定できるように働きかけている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、出来る限りご本人のペースで過ごして頂けるよう支援している。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や散髪など希望に合わせて支援している。					

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせながらお手伝いをお願いし一緒にお願いしている。	管理栄養士が献立を作成し、個々人の能力に応じて、食材の皮むき、下ごしらえ、配膳の準備、食事のあとかたづけ等を、職員と一緒に、会話をしながら行っている。行事食は希望を聞いて献立している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた献立で提供している。看護師とも相談しながら状況に応じて支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に合わせてながら行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	情報交換しながら、その人に合わせた支援をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し職員間で共有して、表情、態度などから把握し、適時にさりげなく誘導し排泄の自立に繋げている。介助する場合にも、言葉がけに気をつけて、対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳や食事を工夫したり、毎日体を動かす働きかけをして取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決めさせていただいているが、その中でご本人のペースで入浴できるよう支援している。	基本的には、最低週2回の入浴とし、それ以上は利用者の希望に合わせている。入浴剤を希望により使用して入浴が楽しくなるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に合わせて休息したり睡眠の支援をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会を行うなどし理解に努め、変化の把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクなどを通し一人ひとりの力に合わせた活動を行い気分転換に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に添えるよう支援に努めている。また、予定を決めて普段は行けないような場所へも出かけられるよう対応している。	利用者の希望に応じて、春には花見、秋には紅葉を楽しんでいる。日常的には、秩父別、深川まで車による買い物支援を行っている。ドライブを兼ねて滝川「道の駅」まで行き、食事を楽しむこともある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況や希望に合わせて所持している方もいるが、他の方は事務所の方で管理している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけたりに対応している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や、温度や湿度調節、換気など居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	居間兼食堂は、天窓があり明るく広く、季節の飾り物などゆっくり落ち着けるように配慮され、大きな扇風機が取り付けられ温度、湿度も調整されている。神棚が飾られ家庭的雰囲気の中で、それぞれが、テレビを見たり、手芸や、会話など思い思いのことをして、ゆったり居心地よく過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こちら側で取決めせず、ご本人が自由に過ごして頂けるよう支援している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを自由に持ってきていただき居心地よく過ごせるようにしている。	居室には、使い慣れ親しんだタンス、座卓やテレビ、冷蔵庫、仏壇、壁には、写真などを飾り、それぞれが、思い出を大切に、居心地よく過ごすことが出来るよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、各居室にわかりやすく掲示し自立した生活ができるよう努めている。			